

第3章

これまでの主な取組と課題

1 健康わかやま21の最終評価

(1) 評価の判定方法

策定時の値をベースライン値として、ベースライン値と最終実績値を比較し、以下の通りに評価を判定しました。評価判定には、①信頼区間*を用いた判定方法、②到達係数を用いた判定方法を用いました。

①信頼区間を用いた判定方法

最終実績値の95%信頼区間

$$= \text{最終実績値} \pm 1.96 \times \sqrt{[\text{最終実績値} \times (100 - \text{最終実績値})] \div \text{最終実績値の母数}}$$

判定	判定方法
A 目標値に達している	最終実績値が目標値に達している。
B 目標値に達していないが改善傾向にある	最終実績値がベースライン値よりも目標値に近づいている。かつ、ベースライン値が最終実績値の95%信頼区間よりも外にある。
C 横ばい	ベースライン値が最終実績値の95%信頼区間の範囲内にある。
D 悪化している	最終実績値がベースライン値よりも目標値から遠ざかっている。かつ、ベースライン値が最終実績値の95%信頼区間よりも外にある。
E 比較不可	データがないため比較不可。

②到達係数を用いた判定方法

$$\text{到達係数} = (\text{最終実績値} - \text{ベースライン値}) \div (\text{目標値} - \text{ベースライン値}) \times 100$$

判定	到達係数
A 目標値に達している	100 以上
B 目標値に達していないが改善傾向にある	50~99
C 横ばい	1~49
D 悪化している	0 以下
E 比較不可	データがないため比較不可

（2）最終評価の結果

①健康寿命の延伸

健康寿命は、2010(平成22)年と比較して男性は1.8延伸し、女性は1.2延伸しています。男性は目標達成しており、女性は改善傾向となっています。

健康寿命		2010 (平成22)年	2016 (平成28)年	2017 (平成29)年	2018 (平成30)年	2019 (令和元)年	2020 (令和2)年	2021 (令和3)年	評価判定	目標値
和歌山市	男性	78.0	78.3	78.9	78.7	79.1	79.8	79.8	A	79.6
	女性	82.2	82.6	82.8	83.4	83.8	84.3	83.4	B	83.7
全国	男性	78.2	79.5	—	—	79.9	—	—	—	—
	女性	83.2	83.8	—	—	84.2	—	—	—	—

②分野別の目標達成状況

目標の達成状況は、設定した指標から「目標達成」と「改善傾向」を合わせると44.8%、「横ばい」29.9%、「悪化」25.4%でした。

判定	A：目標達成	B：改善傾向	C：横ばい	D：悪化	E：比較不可	合計
栄養・食生活	2	0	6	3	0	11
身体活動・運動	0	2	2	3	0	7
こころの健康	0	5	3	2	0	10
たばこ	0	2	3	0	0	5
アルコール	0	2	1	1	0	4
歯と口腔の健康	5	3	0	1	0	9
介護予防	0	2	1	2	0	5
健康管理と重症化予防	2	3	3	4	0	12
地域の絆	2	0	1	1	0	4
合計	11 (16.4%)	19 (28.4%)	20 (29.9%)	17 (25.4%)	0 (0.0%)	67

A 目標達成した項目	D 悪化した項目
共食*している子どもの割合の増加	野菜摂取量の増加
全出生数中の低体重児の割合の減少	肥満傾向にある子どもの割合の減少
3歳児でむし歯がない者の割合の増加	肥満者の割合の減少【40歳～74歳男性】
3歳児の一人平均むし歯数の減少	運動やスポーツを習慣的に実施している子どもの割合の増加【中学2年生】
12歳児の一人平均むし歯数の減少	運動やスポーツを1日当たり1時間以上している子どもの割合の増加【小学5年生】
40歳で喪失歯のない者の割合の増加	運動やスポーツを1日当たり1時間以上している子どもの割合の増加【中学2年生】
60歳で24本以上の自分の歯を有する者の割合の増加	不登校児童、生徒の割合の減少【小学生】
新規透析導入患者数の減少	不登校児童、生徒の割合の減少【中学生】
脳血管疾患の年齢調整死亡率*（人口10万人当たり）の減少	生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合の減少
ボランティア登録団体数の増加	40歳における進行した歯周炎を有する者の割合の減少
相談したり、助けてもらえる人が身近にいると思っている者の割合の増加	要介護認定*率の増加の抑制
	生きがいをもつ高齢者の割合の増加
	特定保健指導*の実施率の向上
	高血圧のある者の割合の減少
	脂質異常症の減少
	メタボリックシンドローム*の該当者及び予備群の割合の減少
	地域子育て支援拠点事業の利用者数の増加

2 分野別の目標と判定結果

(1) 栄養・食生活

No	指標	対象	策定時	中間値	最終値	評価判定	目標値
①	朝食を欠食する者の割合の減少	3歳児	19.2%	15.8%	9.6%	C 横ばい	10.0%
		小学生	7.9%	9.4%	8.7%		5.0%
		中学生	17.7%	18.7%	18.4%		10.0%
		高校生	25.3%	23.1%	29.6%		18.0%
		20歳以上	15.6%	14.4%	14.0%		10.0%
②	1日3食規則正しく食べる者の割合の増加	小学5年生	90.6%	91.9%	92.7%	C 横ばい	95.0%
		中学2年生	83.6%	84.5%	83.1%		90.0%
		20歳以上	76.3%	77.5%	78.1%		85.0%
③	共食している子どもの割合の増加	小学生 朝食	80.4%	83.0%	84.5%	A 目標達成	増加
		小学生 夕食	92.7%	96.9%	96.8%		維持 (92.7%)
		中学生 朝食	51.7%	59.8%	62.4%		増加
		中学生 夕食	91.1%	89.4%	92.9%		維持 (91.1%)
④	食塩摂取量の減少（1日の食塩摂取量の平均値）	20歳以上	11.2g	9.7g	9.7g	C 横ばい	8.0g
⑤	野菜摂取量の増加（1日の野菜摂取量の平均値）	20歳以上	298g	274g	230g	D 悪化	350g
⑥	全出生数中の低体重児の割合の減少	出生児	9.6%	10.7%	8.4%	A 目標達成	減少
⑦	肥満傾向（肥満度*20%以上）にある子どもの割合の減少	小学5年生	9.7%	9.9%	12.4%	D 悪化	減少
⑧	やせ体型（BMI 18.5未満）のうち、やせ願望を持つ女子生徒の割合の減少	中学2年生	57.6%	54.4%	61.7%	C 横ばい	40.0%
		高校2年生	44.0%	60.0%	53.6%		40.0%
⑨	肥満者（BMI 25.0以上）の割合の減少	40歳～74歳男性	30.9%	32.5%	37.9%	D 悪化	22.0%
		40歳～74歳女性	21.8%	19.7%	21.3%	C 横ばい	減少
⑩	低栄養傾向（BMI 20以下）の高齢者の割合の増加の抑制	要介護認定を受けていない65歳以上※	—	19.5%	20.7%	C 横ばい	22.0%

※中間評価時に調査対象を、「65歳以上」から「要介護認定を受けていない65歳以上」に変更しました。

(2) 身体活動・運動

No	指標	対象	策定時	中間値	最終値	評価判定	目標値
①	遊びを中心に楽しく体を動かしている幼児の割合の増加（毎日合計60分以上）	3歳児	95.3%	94.4%	94.5%	B 改善傾向	現状維持 (95.3%)
		5歳児	85.0%	92.3%	91.2%		現状維持 (92.3%)
②	運動やスポーツを習慣的に実施している子どもの割合の増加（週に3回以上）	小学5年生男子	52.9%	56.3%	56.2%	B 改善傾向	60.0%
		小学5年生女子	28.7%	37.0%	40.6%		現状維持 (37.0%)
		中学2年生男子	74.6%	70.2%	69.5%	D 悪化	83.0%
		中学2年生女子	52.7%	47.8%	46.9%		60.0%
③	運動やスポーツを1日当たり1時間以上している子どもの割合の増加	小学5年生男子	63.5%	60.1%	55.5%	D 悪化	70.0%
		小学5年生女子	40.8%	38.3%	35.4%		48.0%
		中学2年生男子	76.9%	71.5%	67.4%	D 悪化	85.0%
		中学2年生女子	56.9%	51.0%	46.4%		61.0%
④	運動習慣者の割合の増加（1日30分以上、週2回以上、1年以上継続して運動している者の割合）	20歳～59歳男性	19.7%	27.0%	29.1%	C 横ばい	30.0%
		20歳～59歳女性	15.0%	17.2%	14.2%		25.0%
		60歳以上男性	22.7%	34.2%	29.2%		現状維持 (34.2%)
		60歳以上女性	23.8%	23.0%	23.4%		34.0%
⑤	日常生活における歩数の増加（8,000歩以上の者の割合）	20歳～59歳男性	26.9%	15.2%	22.8%	C 横ばい	47.0%
		20歳～59歳女性	10.1%	8.6%	11.2%		20.0%
	日常生活における歩数の増加（6,000歩以上の者の割合）	60歳以上男性	24.7%	26.6%	27.7%		35.0%
		60歳以上女性	22.7%	14.3%	20.0%		33.0%

(3) こころの健康

No	指標	対象	策定時	中間値	最終値	評価判定	目標値
①	学校が楽しいと感じる児童、生徒の割合の増加	小学5年生	81.7%	—	83.6%※	B 改善傾向	90.0%
		中学2年生	72.2%	—	81.5%※		80.0%
		高校2年生	67.2%	—	70.6%※		75.0%
②	悩みを相談できる相手がいる児童、生徒の割合の増加	小学5年生	82.0%	—	85.5%※	B 改善傾向	90.0%
		中学2年生	73.7%	—	82.4%※		80.0%
		高校2年生	78.1%	—	76.2%※		85.0%
③	将来の夢を持っている児童、生徒の割合の増加	小学5年生	81.7%	—	75.9%※	C 横ばい	85.0%
		中学2年生	53.2%	—	55.5%※		60.0%
		高校2年生	55.6%	—	52.4%※		60.0%
④	不登校児童、生徒の割合の減少	小学生	0.6%	0.5%	1.7%	D 悪化	減少
		中学生	4.6%	4.6%	6.0%	D 悪化	減少
⑤	ふれあい教室への通級率の増加	小・中学生	—	15.2%	17.0%	C 横ばい	25.0%
⑥	ストレスをかなり感じている者の割合の減少	20歳以上	34.3%	26.9%	27.9%	B 改善傾向	20.0%
⑦	睡眠による休養がとれていない者の割合の減少	20歳以上	11.0%	10.4%	9.3%	C 横ばい	9.0%
⑧	自殺者の減少（自殺死亡率（人口10万人当たり））		23.0	19.6	18.3	B 改善傾向	16.6
⑨	安心して子育てできる者（子育てを負担に思わない者）の割合の増加	4か月児健康診査受診者の保護者	63.8%	77.6%	76.1%	B 改善傾向	90.0%

※2018(平成30)年度の値を直近値としています。

（4）たばこ

No	指標	対象	策定時	中間値	最終値	評価判定	目標値
①	未成年※者の喫煙をなくす（喫煙している生徒の割合）	高校生 男子	8.7%	2.1%	8.4%	C 横ばい	0%
		高校生 女子	2.8%	2.6%	4.3%	C 横ばい	0%
②	妊娠中の喫煙をなくす	妊婦	6.5%	3.9%	2.8%	B 改善傾向	0%
③	喫煙率の減少	20歳以上男性	28.6%	29.2%	20.5%	C 横ばい	18.0%
		20歳以上女性	9.0%	6.5%	7.0%		5.0%
④	受動喫煙*の機会を有する者の割合の減少	医療機関	—	5.9%	0.4%	B 改善傾向	0%
		行政機関	—	4.3%	0.5%		0%
		家庭	—	20.1%	11.5%		3%

※未成年とは、計画策定時の定義で20歳未満のことです。

（5）アルコール

No	指標	対象	策定時	中間値	最終値	評価判定	目標値
①	未成年※者の飲酒をなくす（飲酒経験のある生徒の割合）	高校生 男子	10.7%	7.8%	7.8%	B 改善傾向	0%
		高校生 女子	7.4%	9.9%	7.5%	C 横ばい	0%
②	生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合の減少（1日当たりの純アルコール摂取量男性40g以上、女性20g以上の割合）	20歳以上男性	10.1%	12.2%	20.5%	D 悪化	8.6%
		20歳以上女性	7.2%	8.2%	7.0%		6.1%
③	妊婦の飲酒をなくす	妊婦	1.6%	1.0%	0.3%	B 改善傾向	0%

※未成年とは、計画策定時の定義で20歳未満のことです。

（6）歯と口腔の健康

No	指標	対象	策定時	中間値	最終値	評価判定	目標値
①	3歳児でむし歯がない者の割合の増加	3歳6か月	72.6%	78.6%	88.9%	A 目標達成	85.0%
②	3歳児の一人平均むし歯数の減少	3歳6か月	1.1本	0.76本	0.35本	A 目標達成	0.5本
③	2歳6か月児歯科健康診査の受診率の向上	2歳6か月	77.8%	81.5%	80.1%	B 改善傾向	90.0%
④	12歳児のむし歯のない者の割合の増加	12歳	63.9%	72.7%	73.7%	B 改善傾向	80.0%
⑤	12歳児の一人平均むし歯数の減少	12歳	1.0本	0.7本	0.7本	A 目標達成	0.8本以下
⑥	40歳における進行した歯周炎を有する者の割合の減少	40歳	62.6%	68.0%	71.6%	D 悪化	50.0%
⑦	40歳で喪失歯のない者の割合の増加	40歳	56.7%	74.4%	75.2%	A 目標達成	75.0%
⑧	60歳で24本以上の自分の歯を有する者の割合の増加	60歳	68.9%	67.4%	79.3%	A 目標達成	75.0%
⑨	過去1年間に歯科検診を受診した者の割合の増加	20歳以上	19.2%	24.8%	36.4%	B 改善傾向	50.0%

（7）介護予防

No	指標	対象	策定時	中間値	最終値	評価判定	目標値
①	地域活動をしている高齢者の割合の増加	要介護認定を受けていない65歳以上※1	25.0%	53.2%	54.5%	C 横ばい	72.5%
②	ロコモティブシンドローム（運動器症候群）*を認知している者の割合の増加	18歳以上	30.2%	33.3%	37.2%	B 改善傾向	80.0%
③	要介護認定率の増加の抑制	65歳以上（第1号被保険者）	22.8%	23.2%	24.0%	D 悪化	現状維持（23.2%）
④	認知機能の低下がみられる高齢者の割合の増加の抑制※2	75歳以上（要介護、要支援でない人）	—	51.7%※3	48.1%	B 改善傾向	—
⑤	生きがいをもつ高齢者の割合の増加	要介護認定を受けていない65歳以上※1	67.7%	70.9%	60.7%	D 悪化	80.0%

※1 中間評価時に調査対象を、「65歳以上」から「要介護認定を受けていない65歳以上」に変更しました。

※2 中間評価後に「認知機能障害がない者の割合」から「認知機能低下がみられる高齢者の割合」に項目変更しました。

※3 2019(令和元)年度の値を中間値としています。

(8) 健康管理と重症化予防

No	指標	対象	策定時	中間値	最終値	評価判定	目標値
①	特定健康診査の実施率の向上		34.6%	37.4%	43.8%	B 改善傾向	60.0%
②	特定保健指導の実施率の向上		42.5%	25.1%	15.7%	D 悪化	45.0%
③	高血圧のある者の割合 (収縮期血圧 140mmHg 以上もしくは拡張期血 圧 90mmHg 以上の者の割 合)の減少	男性	31.1%	30.8%	34.5%	D 悪化	28.0%
		女性	23.8%	22.6%	24.3%		20.0%
④	脂質異常症 (LDLコ レステロール*160mg/dL 以上の者の割合)の減 少	男性	12.2%	13.2%	13.6%	D 悪化	9.0%
		女性	16.6%	17.0%	16.2%		13.0%
⑤	メタボリックシンドロームの該当者及 び予備群の割合の減少		29.2%	29.7%	31.4%	D 悪化	22.0%
⑥	血糖コントロール指標におけるコント ロール不良者の割合 (HbA1c が JDS 値 8.0% (NGSP 値 8.4%) 以上の者の割合) の減少		1.3%	0.9%	1.1%	B 改善傾向	現状維持 (0.9%)
⑦	新規透析導入患者数の減少		161人	106人	108人	A 目標達成	現状維持 (106人)
⑧	脳血管疾患の年齢調整 死亡率 (人口10万人当 たり)の減少*1	男性	38.6	33.2	27.1	A 目標達成	32.4
		女性	18.3	15.3	13.6		現状維持 (15.3)
⑨	虚血性心疾患*の年齢 調整死亡率 (人口10万 人当たり)の減少*1	男性	64.8	59.0	40.4	B 改善傾向	55.7
		女性	25.0	18.5	18.5		13.7
⑩	COPD (慢性閉塞性 肺疾患)の認知度の向 上	18歳以上	41.6%	49.4%	43.5%	C 横ばい	80.0%
⑪	がんの年齢調整死亡率 (人口10万人当 たり)の減少 (75歳未満)*1*2		—	75.4	71.3	C 横ばい	62.7
⑫	がん検診受診率の向上	胃	1.9%	4.1%	3.0%	C 横ばい	10.0%
		肺	3.8%	4.6%	4.4%		10.0%
		大腸	4.9%	3.9%	3.9%		10.0%
		子宮	17.3%	15.9%	13.1%		20.0%
		乳	10.1%	10.3%	8.9%		20.0%

※1 年齢調整死亡率の基準人口は昭和60年モデル人口を使用しています。

※2 中間評価時より指標対象にしています。

(9) 地域の絆

No	指標	対象	策定時	中間値	最終値	評価判定	目標値
①	地域子育て支援拠点事業の利用者数の増加 ^{※1}		—	115,675人	83,362人	D 悪化	現状維持 (115,675人)
②	ボランティア登録団体数の増加 ^{※2}		—	381団体	538団体	A 目標達成	399団体
③	地域活動をしている高齢者の割合の増加	要介護認定を受けていない65歳以上 ^{※3}	—	53.2%	54.5%	C 横ばい	72.5%
④	相談したり、助けてもらえる者が身近にいると思っている者の割合の増加	18歳以上	80.4%	86.2%	88.0%	A 目標達成	86.6%

※1 計画策定後に「つどいの広場利用者数」から「地域子育て支援拠点事業の利用者数」に項目変更しました。

※2 計画策定後に「NPO*ボランティア活動に登録している住民」から「ボランティア登録団体数」に項目変更しました。

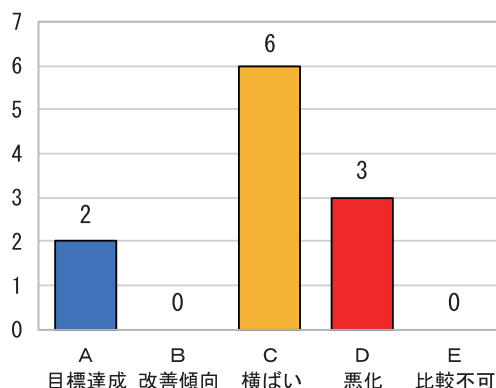
※3 中間評価時に調査対象を、「65歳以上」から「要介護認定を受けていない65歳以上」に変更しました。



3 分野別の取組と課題

(1) 栄養・食生活

11指標のうち、「目標達成」は2つ、「横ばい」は6つ、「悪化」は3つでした。

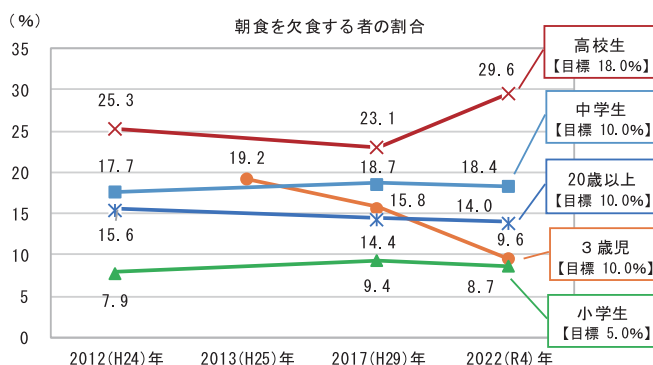


①目標値の達成状況

指標1-① 朝食を欠食する者の割合の減少

横ばい

・朝食を欠食する者の割合について、3歳児は目標を達成していますが、高校生は増加しており、それ以外は横ばいとなっています。

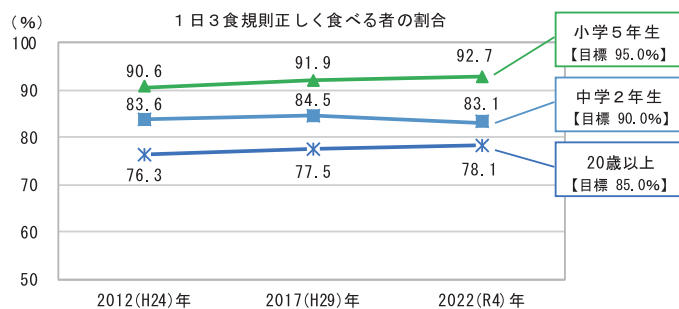


出典：和歌山市生活習慣調査（3歳児・小学生・中学生・高校生）、市政世論調査（20歳以上）

指標1-② 1日3食規則正しく食べる者の割合の増加

横ばい

・1日3食規則正しく食べる者の割合は、小学5年生・中学2年生・20歳以上のいずれも横ばいとなっています。

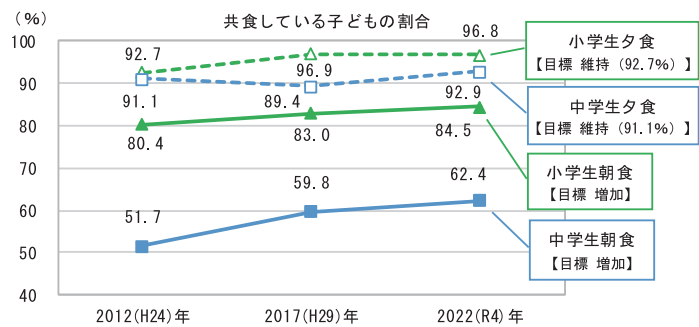


出典：和歌山市生活習慣調査（小学5年生・中学2年生）、市政世論調査（20歳以上）

指標1-③ 共食している子どもの割合の増加

目標達成

- 共食している子どもの割合は、小学生・中学生ともに目標を達成しています。

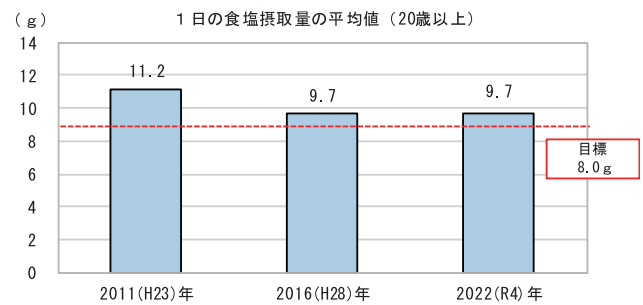


出典：和歌山市生活習慣調査

指標1-④ 食塩摂取量の減少

横ばい

- 1日の食塩摂取量の平均値（20歳以上）は、横ばいとなっています。

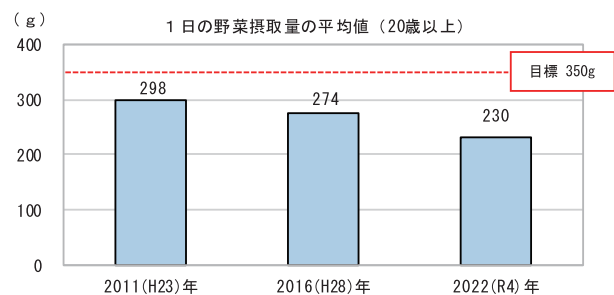


出典：県民健康・栄養調査

指標1-⑤ 野菜の摂取量の増加

悪化

- 1日の野菜摂取量の平均値（20歳以上）は、減少しています。



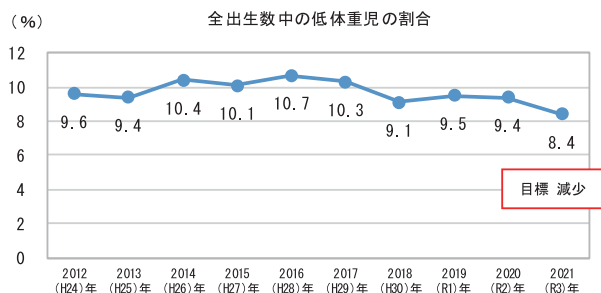
出典：県民健康・栄養調査

指標1-⑥

全出生数中の低体重児の割合の減少

目標達成

・全出生数中の低体重児の割合は、減少しています。



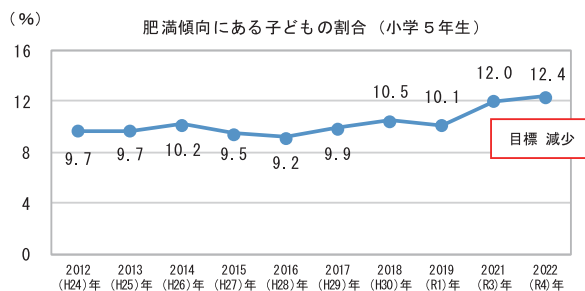
出典：人口動態統計

指標1-⑦

肥満傾向にある子どもの割合の減少

悪化

・肥満傾向（肥満度 20%以上）にある子どもの割合は、増加しています。



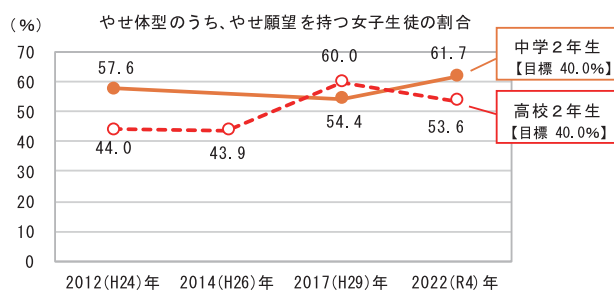
出典：定期健康診断結果報告書（和歌山県教育委員会）

指標1-⑧

やせ体型のうち、やせ願望を持つ女子生徒の割合の減少

横ばい

・やせ体型（BMI 18.5 未満）のうち、やせ願望を持つ女子生徒の割合は、中学2年生・高校2年生ともに横ばいとなっていますが、母数（やせ体型の女子生徒数）が少ないため、今後の経過をみていく必要があります。



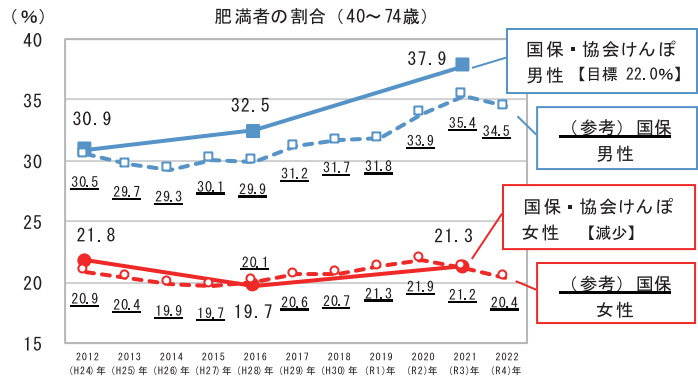
出典：和歌山市生活習慣調査

指標1-⑨

肥満者の割合の減少

男性 悪化
女性 横ばい

・肥満者（BMI 25.0 以上）の割合について、男性は増加し、女性は横ばいとなっています。



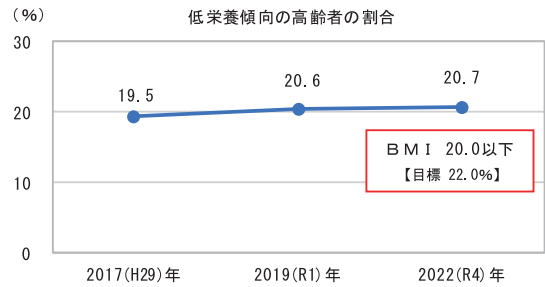
※女性の目標は中間評価時の目標の内容です。
出典：特定健康診査（和歌山市民健康保険、全国健康保険協会和歌山支部）

指標1-⑩

低栄養傾向の高齢者の割合の増加の抑制

横ばい

・低栄養傾向の高齢者の割合は、横ばいとなっています。



※目標は指標変更後の値です。
出典：和歌山市民介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

②これまでの主な取組

関係機関・団体

■和歌山市食生活改善推進協議会

- ・保育所等を訪問し、バランス良く食べることの大切さについてエプロンシアター*や紙芝居などで食育*を実施。
- ・市主催の「健康応援フェア」において食に関するブースを設け、リーフレットの配布や野菜 350g の模型の展示などを行い、野菜の適量摂取について啓発活動を実施。
- ・男性を対象に健康に関する講話を含めた調理実習を実施。また、そのOB会も実施。

行政

■保育こども園課

○栽培収穫実践

- ・栽培、収穫体験で季節の野菜を知り、食べ物や自然に感謝の気持ちを持つことを目的に実施。
- ・約6か月にわたり10品目から15品目の収穫（全市立保育所・こども園で毎年実施）

■学校教育課

○JAわかやまとの連携による野菜栽培体験

- ・JAわかやまとの連携により、小学5年生を対象に、学校において野菜を「育てる」「収穫する」「調理する」「味わう」等の体験を通して、食に関わっていきこうとする力を育むことを目的に実施。（市立小学校で毎年実施）

■地域保健課

○健康教育

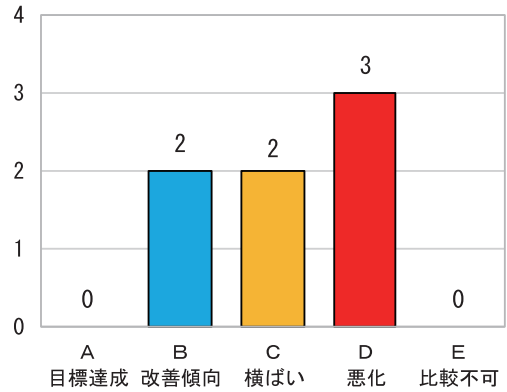
- ・様々な世代の住民を対象に、栄養や望ましい食事についての講義や調理実習を実施し、健康的な生活習慣を築けるよう支援。

③現状と課題

- ・朝食の欠食について、特に高校生の割合が増加しています。望ましい生活習慣の確立に加え、朝食摂取の重要性を保護者も含めて、さらに啓発していくことが必要です。
- ・1日3食規則正しく食べる者の割合は横ばいとなっています。規則正しい食生活は健康管理の基本であるため、引き続き啓発を行っていくことが必要です。
- ・成人の1日の食塩摂取量は横ばいとなっています。適量摂取や具体的な摂取方法等について、引き続き情報を提供していく必要があります。
- ・成人の1日の野菜摂取量が減少しています。野菜の適量摂取の啓発を、全市民に対してはもちろんのこと、こどもの食事を担い、食習慣を作っていく役割を担っている若い世代に対して重点的に行う必要があります。
- ・やせ体型でありながらダイエット願望のある女子生徒の割合は横ばいとなっています。必要のないダイエットの危険性や適正体重の維持について、引き続き啓発していく必要があります。
- ・肥満傾向にあるこども及び男性の肥満者の割合が増加しています。このため、適切な食事量や料理のバランス、それを実現するための方法を伝えていく必要があります。

(2) 身体活動・運動

7指標のうち、「改善傾向」は2つ、「横ばい」は2つ、「悪化」は3つで、目標を達成している指標はありませんでした。

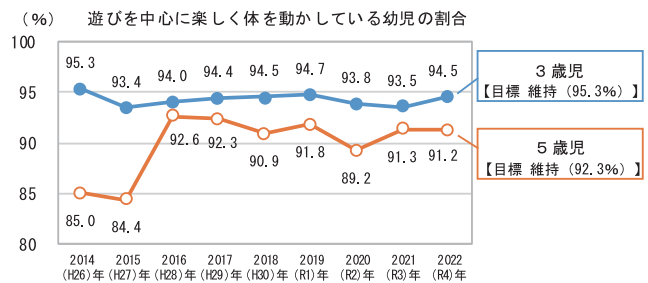


①目標達成状況

指標2-① 遊びを中心に楽しく体を動かしている幼児の割合の増加

改善傾向

- 遊びを中心に楽しく体を動かしている幼児の割合（毎日合計60分以上）について、3歳児・5歳児ともに増加しています。

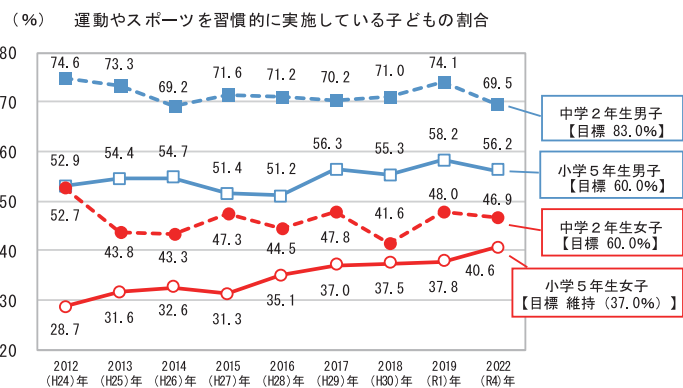


※5歳児の目標は中間評価時の目標の内容（値）です。
出典：3歳児健康診査、5歳児相談 生活状況調査

指標2-② 運動やスポーツを習慣的に実施している子どもの割合の増加

小学5年生 改善傾向
中学2年生 悪化

- 運動やスポーツを習慣的に実施している子どもの割合（週に3回以上）について、小学5年生の男子は増加し、女子は目標を達成しています。中学2年生は、男女とも減少しています。



※小学5年生女子の目標は中間評価時の目標の内容（値）です。
出典：児童生徒の体力・運動能力調査（和歌山県教育委員会）

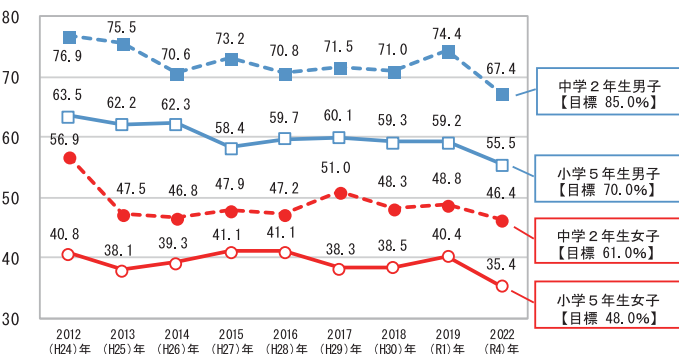
指標2-③

運動やスポーツを1日あたり1時間以上している子どもの割合の増加

小学5年生 悪化
中学2年生 悪化

・運動やスポーツを1日あたり1時間以上している子どもの割合は、性別に関係なく、小学5年生・中学2年生ともに減少しています。

(%) 運動やスポーツを1日あたり1時間以上している子どもの割合



出典：児童生徒の体力・運動能力調査（和歌山県教育委員会）

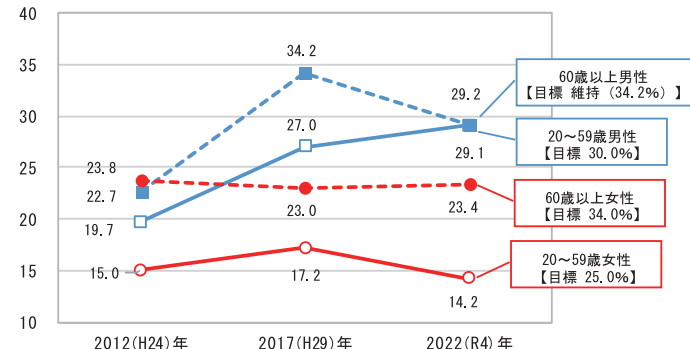
指標2-④

運動習慣者の割合の増加

横ばい

・運動習慣者（1日30分以上、週2回以上、1年以上継続して運動している者）の割合について、年代に関係なく、男性は増加し、女性は横ばいとなっています。

(%) 運動習慣者の割合



※60歳以上男性の目標は中間評価時の目標の内容（値）です。
出典：市政世論調査

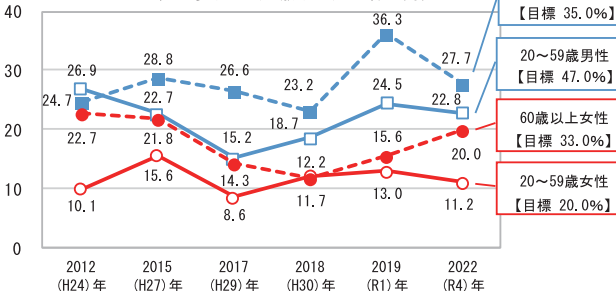
指標2-⑤

日常生活における歩数の増加

横ばい

・日常生活における歩数が8,000歩以上（20~59歳）あるいは6,000歩以上（60歳以上）の者の割合は、年代に関係なく、男女とも横ばいとなっています。

(%) 日常生活における歩数が8,000歩以上（20~59歳）あるいは6,000歩以上（60歳以上）の者の割合



出典：市政世論調査

②これまでの主な取組

関係機関・団体

■和歌山市ウォーキング会

- ・県内外でウォーキングを月1回実施。ノルディックウォーキング*も月2回実施。全日本ウォーキング協会の開催行事に参加。

■日本健康運動指導士会和歌山支部

- ・地域での運動普及を目的に、国保運動教室、特定保健指導運動教室、ウォーキング講習会、健康応援フェア等で健康運動指導士や実践指導者が健康づくりをサポート。

行政

■スポーツ振興課

○総合型地域スポーツクラブ

- ・地域住民が自主的・主体的に運営している、様々な種目・世代・技術レベルに対応したスポーツクラブを支援。

○体育館等施設管理者によるスポーツ教室

- ・ソフトテニス、バドミントン、卓球、硬式テニス、エアロビクスダンス、スイミングなど様々な多種目のスポーツ教室を開催。

■学校教育課

○パワーアップチャレンジ手帳

- ・基本的な運動能力を高めることによって、運動に親しむ力を養い、自己の体力の向上や、生活習慣を見直すきっかけづくりに役立てるため、教育委員会が「パワーアップチャレンジ手帳」を作成し、小・中学校の児童と生徒に配布。

■生涯学習課

○学校の体育施設開放

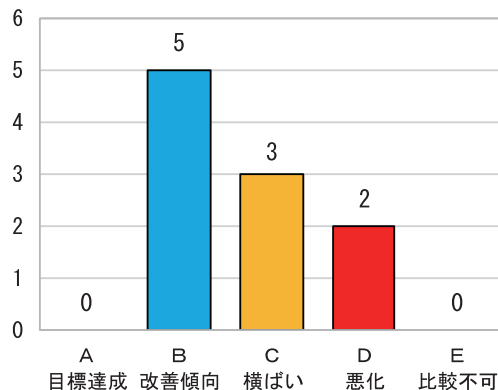
- ・小・中学校のグラウンドや体育館を、野球・サッカー等に使用したい市民に貸し出し、スポーツに接する機会を増加。

③現状と課題

- ・乳幼児期は、小・中学校で本格的にスポーツに接する前の大切なプレ・スポーツ期であるため、遊びや散歩など子どもたちが楽しく体を動かす習慣をつくるように、取り組んでいく必要があります。
- ・運動やスポーツを1日当たり1時間以上している小学生・中学生の割合は減少しています。今後は、生活習慣病（NCDs）に移行させないためにも、身体活動の増加のための積極的な取組が必要です。
- ・日常生活における歩数は、すべての年代で横ばいとなっています。ウォーキングの推奨や日常生活活動等による歩数増加に向け、引き続き啓発していく必要があります。
- ・健康な食環境や身体活動・運動を促す環境をはじめとする自然に健康になれる環境づくりの取組を実施し、健康に関心の薄い者を含む幅広い対象に向けた健康づくりに取り組んでいく必要があります。

(3) こころの健康

10指標のうち、「改善傾向」は5つ、「横ばい」は3つ、「悪化」は2つで、目標を達成している指標はありませんでした。

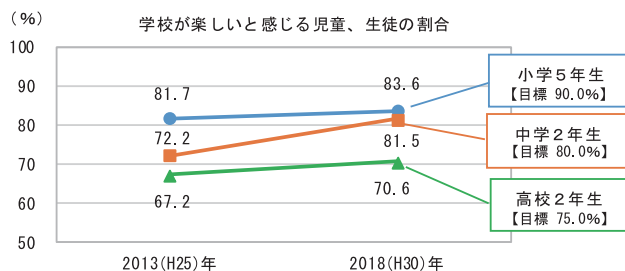


①目標達成状況

指標3-① 学校が楽しいと感じる児童、生徒の割合の増加

改善傾向

- 学校が楽しいと感じる児童、生徒の割合について、中学2年生は目標を達成していますが、小学5年生・高校2年生は横ばいとなっています。

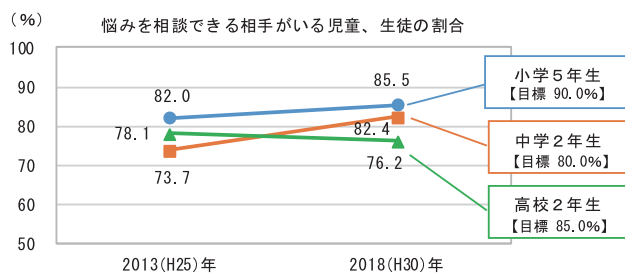


出典：子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査

指標3-② 悩みを相談できる相手がいる児童、生徒の割合の増加

改善傾向

- 悩みを相談できる相手がいる児童、生徒の割合について、中学2年生は目標を達成していますが、小学5年生・高校2年生は横ばいとなっています。



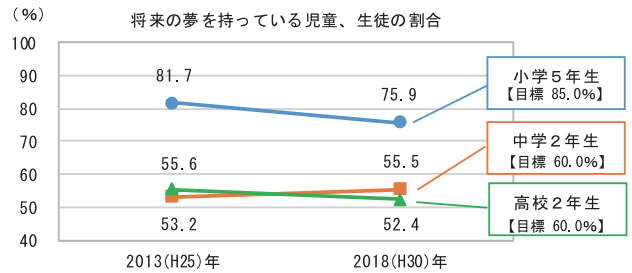
出典：子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査

指標3-③

将来の夢を持っている児童、生徒の割合の増加

横ばい

- ・将来の夢を持っている児童、生徒の割合について、中学2年生・高校2年生は、横ばいとなっていますが、小学5年生は減少しています。



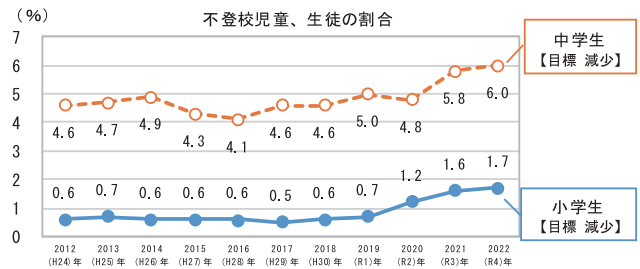
出典：子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査

指標3-④

不登校児童、生徒の割合の減少

小学生 悪化
中学生 悪化

- ・不登校の児童、生徒の割合は、小学生・中学生ともに増加しています。



※目標は中間評価時の目標の内容です。

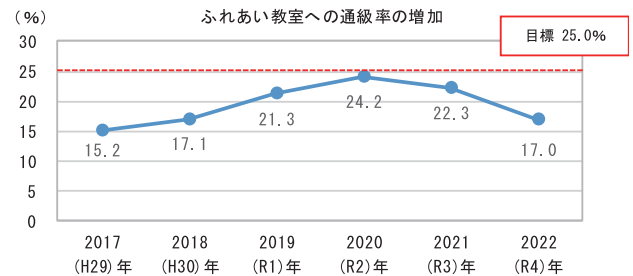
出典：学校基本調査、児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査

指標3-⑤

ふれあい教室への通級率の増加

横ばい

- ・ふれあい教室*への通級率は、横ばいとなっています。



出典：和歌山市子ども支援センター調査

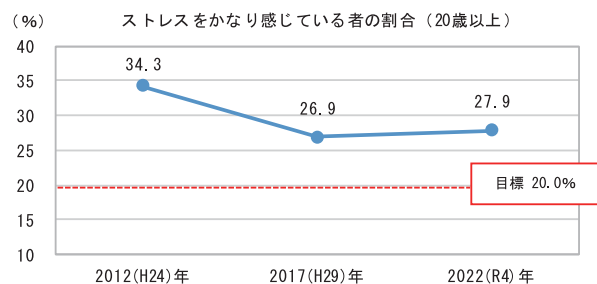
*ふれあい教室とは、不登校のこどものための適応指導教室です。児童・生徒が安心して過ごせる場を提供し、友達とのふれあいや学習を通して、学校復帰を目指し取り組んでいます。

指標3-⑥

ストレスをかなり感じている者の割合の減少

改善傾向

- ・ストレスをかなり感じている者の割合は、減少しています。



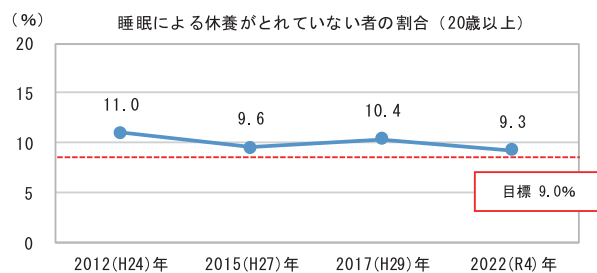
出典：市政世論調査

指標3-⑦

睡眠による休養がとれていない者の割合の減少

横ばい

- ・睡眠による休養がとれていない者の割合は、横ばいとなっています。



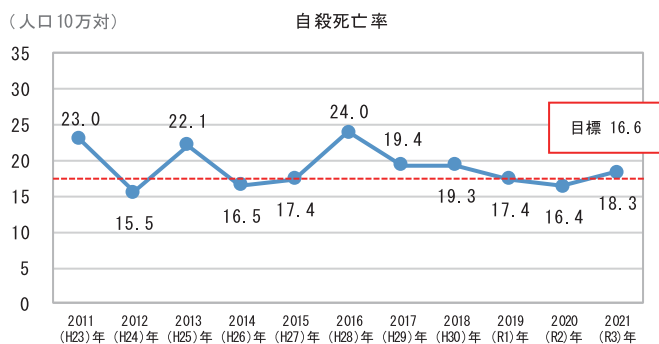
出典：市政世論調査

指標3-⑧

自殺者の減少

改善傾向

- ・自殺死亡率（人口10万人当たり）は、年により変動していますが、減少しています。



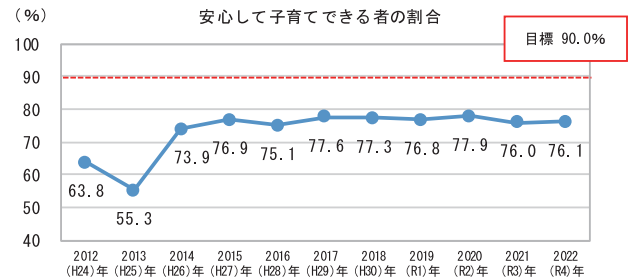
出典：人口動態統計

指標3-⑨

安心して子育てできる者の割合の増加

改善傾向

- ・安心して子育てできる者（子育てを負担に思わない者）の割合は、増加しています。



※目標は中間評価時の目標の値です。
出典：乳幼児健康診査アンケート

②これまでの主な取組

関係機関・団体

■社会福祉法人和歌山いのちの電話協会

- ・養成課程を修了した相談員が、様々な悩みやこころの危機に直面している方、相談相手がなく孤独や不安に苦しむ方に、電話を通してこころの支えになろうとする活動「いのちの電話」を実施。

■NPO法人心のSOSサポートネット

- ・自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応（悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る）を図ることができるゲートキーパー*（こころの安全パトロール隊員）を養成。

行政

■学校教育課

○いじめ防止、不登校解消の取組

- ・いじめ防止、不登校解消のために、保護者や教職員へのリーフレット等の配布や教職員への研修講座の開催、検討委員会の開催等を実施。児童生徒に対し定期的なアンケート調査や教育相談を実施。

■保健対策課・学校教育課・人事課

○ゲートキーパーの養成講座

- ・市職員及び教職員への研修会や、各種団体や関係機関、事業所などへの出前講座でゲートキーパー（自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応（悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る）を図ることができる人）を養成。

■保健対策課

○精神保健福祉相談及び訪問

- ・精神科医による定期相談、精神保健福祉相談員、保健師による相談・訪問を実施。

○いのち支える自殺対策の取組

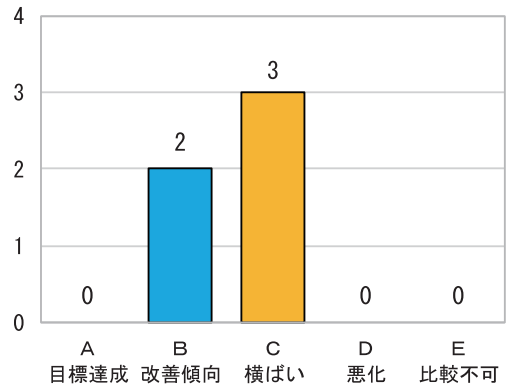
- ・市民へのリーフレット等配布やポスターコンクールによる普及・啓発、うつ病等の相談・支援体制の充実、自殺未遂者支援、関係機関との連携強化を実施。

③現状と課題

- ・不登校の児童・生徒の割合は増加傾向にあります。教員研修の充実、スクールカウンセラー*やスクールソーシャルワーカー*の活用による相談体制の整備が重要です。
- ・睡眠による休養がとれていない成年の割合は横ばいとなっています。良い睡眠をとれるよう、引き続き働きかけをしていく必要があります。
- ・職場や学校や地域を通じ、自殺はその多くが追い込まれた末の死であり、その多くが防ぐことのできる社会的問題であるとの認識や自殺や精神疾患に対する偏見をなくすとともに、危機に陥った場合は1人で抱え込まずに、誰かに相談することが適切であることの理解を広める必要があります。
- ・価値観が多様化する現代社会のなかで、市民一人ひとりのメンタルヘルスリテラシー*の向上の重要性が高まっており、メンタルヘルス*や精神疾患に関する普及・啓発及び市民を対象とした「心のサポーター」養成の推進を図る必要があります。

（4）たばこ

5指標のうち、「改善傾向」は2つ、「横ばい」は3つで、目標を達成している指標はありませんでした。

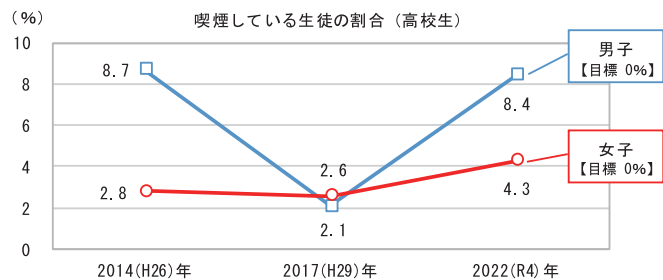


①目標達成状況

指標4-① 未成年者の喫煙をなくす

男子 横ばい
女子 横ばい

- 未成年者の喫煙（喫煙している生徒）の割合は、高校生男子・高校生女子ともに横ばいとなっています。

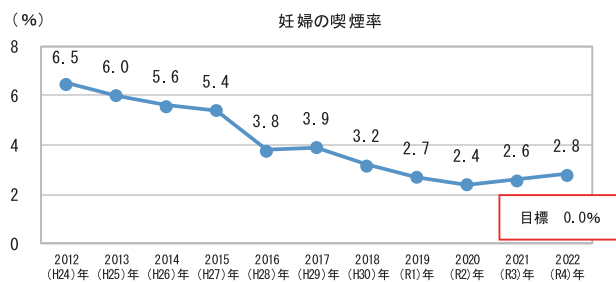


出典：和歌山市生活習慣調査

指標4-② 妊娠中の喫煙をなくす

改善傾向

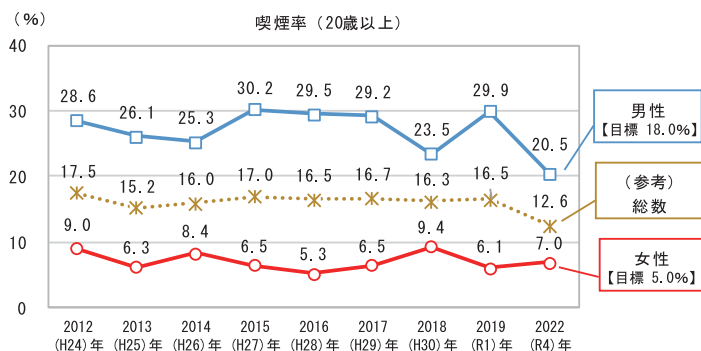
- 妊婦の喫煙率は、減少しています。



出典：妊娠届出時アンケート

指標4-③ 喫煙率の減少 横ばい

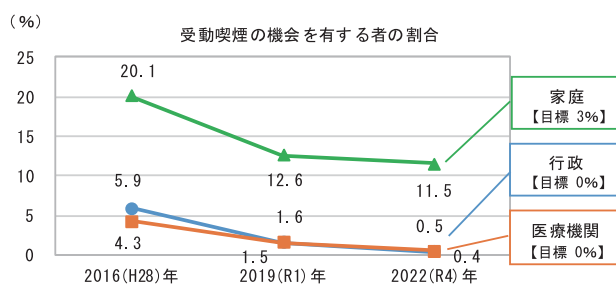
・20歳以上の喫煙率について、男性は減少していますが、女性は横ばいとなっています。



出典：市政世論調査

指標4-④ 受動喫煙の機会を有する者の割合の減少 改善傾向

・受動喫煙の機会を有する者の割合は、すべての場所において、減少しています。



出典：市政世論調査

②これまでの主な取組

関係機関・団体

■たばこ問題を考える会・和歌山

- ・たばこによる健康被害をなくすことを目的として、「世界禁煙デー」に街頭啓発、講演会「世界禁煙デーフォーラム」等を開催。

行政

■保健給食管理課

○防止教育

- ・小学校4、5、6年生を対象に、禁煙ボランティア（学校医）による喫煙防止教室を実施。

■地域保健課

○はたちのつどいでの啓発

- ・たばこの害について情報提供し、禁煙の啓発を実施。

○妊婦への禁煙啓発

- ・妊娠届出時に、たばこの害について情報提供し、喫煙している妊婦または家族に対し、禁煙指導を実施。

○世界禁煙デー及び禁煙週間での禁煙啓発

- ・支所・連絡所、保健センター・コミュニティーセンター等に禁煙啓発ポスターの掲示。
- ・市堀川の水辺におけるライトアップを実施。
- ・本庁舎において、動画モニターによる禁煙の啓発を実施。
- ・ラジオ及び雑誌、ホームページ、SNSにおける喫煙の啓発を実施。

○受動喫煙における相談等の対応

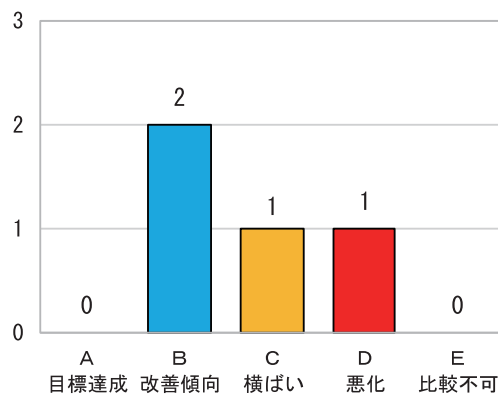
- ・事業所及び飲食店等における相談や指導の実施。

③現状と課題

- ・20歳未満の者の喫煙率は横ばいとなっています。20歳未満の者の喫煙の根絶に向けて、学校、家庭、行政が連携し健康教育・健康相談を通じ、たばこの身体におよぼす影響について、引き続き啓発していく必要があります。
- ・2018(平成30)年に健康増進法*の改正もあり、受動喫煙の機会を有する者の割合は減少していますが、引き続き特に影響が大きい子どもや患者等の望まない受動喫煙への周知・啓発を行っていく必要があります。

（5）アルコール

4指標のうち、「改善傾向」は2つ、「横ばい」は1つ、「悪化」が1つで、目標を達成している指標はありませんでした。

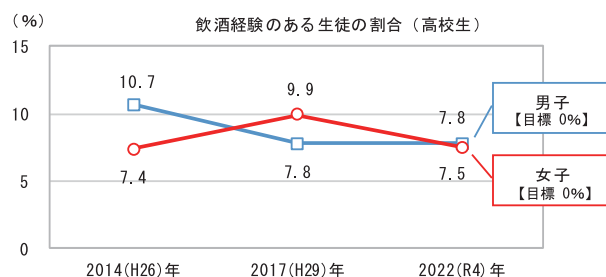


①目標達成状況

指標5-① 未成年者の飲酒をなくす

男子 改善傾向
女子 横ばい

- 未成年者の飲酒（飲酒経験のある生徒）の割合について、高校生男子は減少していますが、高校生女子は横ばいとなっています。

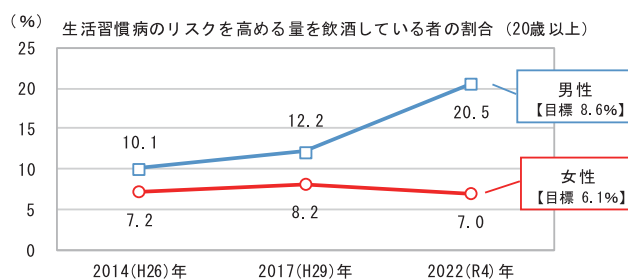


出典：和歌山市生活習慣調査

指標5-② 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合の減少

悪化

- 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者（1日当たりの純アルコール摂取量男性40g以上、女性20g以上の者）の割合について、男性は増加していますが、女性は横ばいとなっています。



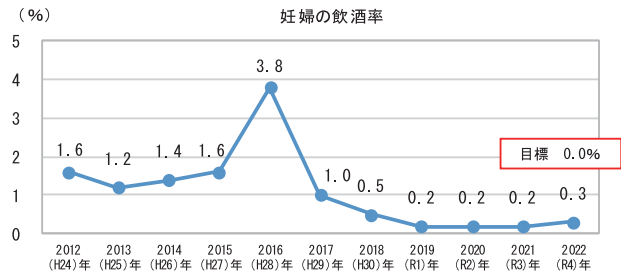
出典：市政世論調査

指標5-③

妊婦の飲酒をなくす

改善傾向

- ・妊婦の飲酒率は、減少しています。



出典：妊娠届出時アンケート

②これまでの主な取組

関係機関・団体

■自助グループAA和歌山グループ、和歌山市断酒会友綱

- ・アルコール関連問題に悩む人や家族からの相談や、集団治療の場としての活動を実施。

行政

■学校教育課

○喫煙・飲酒・薬物乱用防止教室

- ・小・中・高等学校において、警察、少年センターの講師による喫煙・飲酒・薬物乱用防止教室を実施。

■地域保健課

○マタニティサークル

- ・妊婦を対象に、アルコールについての知識の普及と健康障害に関する情報を提供。

■保健対策課

○アルコール・薬物依存等相談

- ・精神科医や精神保健福祉相談員等による依存症に関する相談を実施。

○健康応援フェア

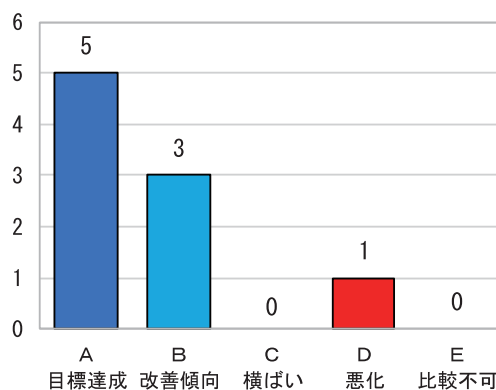
- ・アルコール適正量に関するパネルの展示、パンフレット配布、アルコールに対する体質チェック（パッチテスト）を実施。

③現状と課題

- ・飲酒経験のある高校生男子の割合は減少していますが、高校生女子は横ばいとなっています。20歳未満の者の飲酒は、身体の悪影響をおよぼし、健全な発育を阻害するため、引き続き飲酒についての正しい知識を普及・啓発する必要があります。
- ・生活習慣病(NCDs)のリスクを高める量を飲酒している者の割合は、男性は増加していますが、女性は横ばいとなっています。今後も多量飲酒やアルコール依存の危険性について、引き続き周知を行う必要があります。

（6）歯と口腔の健康

9指標のうち「目標達成」は5つ、「改善傾向」が3つ、「悪化」は1つでした。



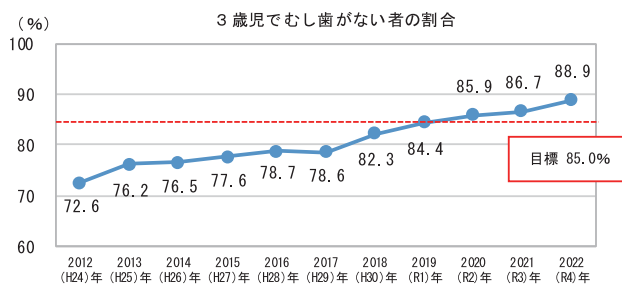
①目標達成状況

指標6-①

3歳児でむし歯がない者の割合の増加

目標達成

- 3歳児でむし歯がない者の割合は、目標を達成しています。



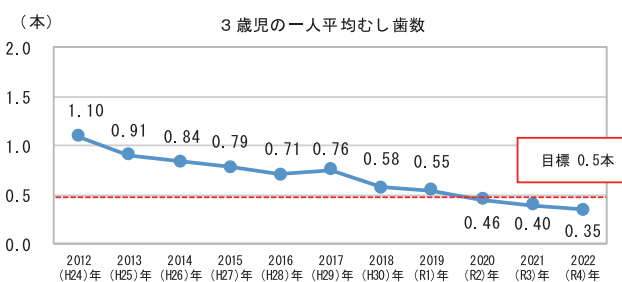
出典：3歳児健康診査

指標6-②

3歳児の一人平均むし歯数の減少

目標達成

- 3歳児の一人平均むし歯数は、目標を達成しています。



※目標は中間評価時の目標の値です。

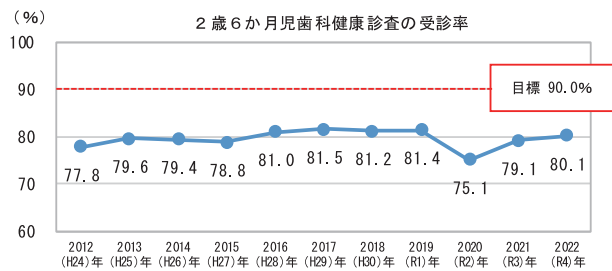
出典：3歳児健康診査

指標6-③

2歳6か月児歯科健康診査の受診率の向上

改善傾向

- ・2歳6か月児歯科健康診査の受診率は、増加しています。



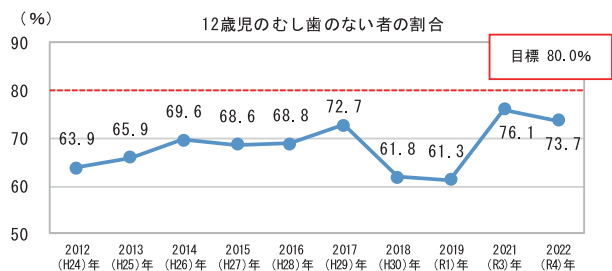
出典：2歳6か月児歯科健康診査

指標6-④

12歳児のむし歯のない者の割合の増加

改善傾向

- ・12歳児のむし歯のない者の割合は、増加しています。



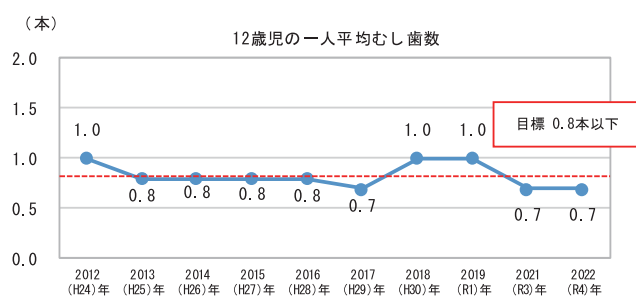
出典：定期健康診断結果報告書（和歌山県教育委員会）

指標6-⑤

12歳児の一人平均むし歯数の減少

目標達成

- ・12歳児の一人平均むし歯数は、目標を達成しています。



※目標は中間評価時の目標の値です。

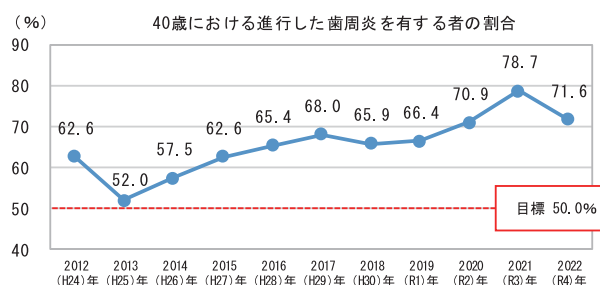
出典：定期健康診断結果報告書（和歌山県教育委員会）

指標6-⑥

40歳における進行した歯周炎を有する者の割合の減少

悪化

- 40歳における進行した歯周炎を有する者の割合は、増加しています。



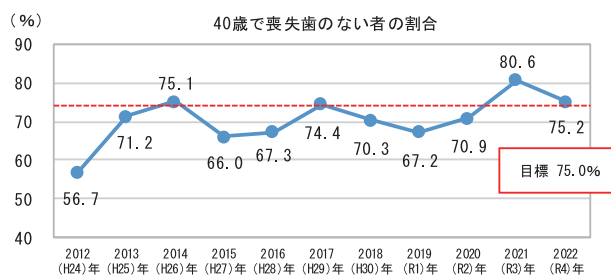
出典：歯周病検診

指標6-⑦

40歳で喪失歯のない者の割合の増加

目標達成

- 40歳で喪失歯のない者の割合は、目標を達成しています。



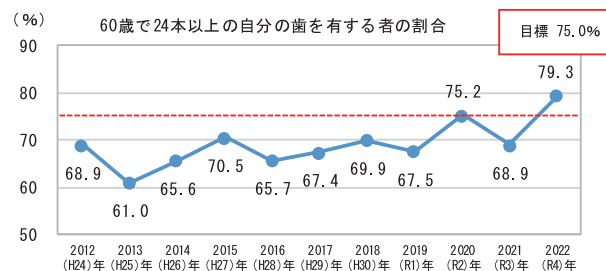
出典：歯周病検診

指標6-⑧

60歳で24本以上の自分の歯を有する者の割合の増加

目標達成

- 60歳で24本以上の自分の歯を有する者の割合は、目標を達成しています。



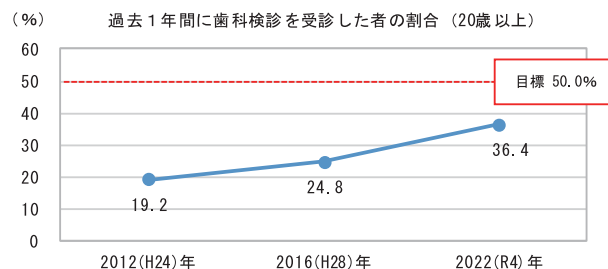
出典：歯周病検診

指標6-⑨

過去1年間に歯科検診を受診した者の割合の増加

改善傾向

- ・過去1年間に歯科検診を受診した者の割合は、増加しています。



出典：市政世論調査

②これまでの主な取組

関係機関・団体

■和歌山市歯科医師会

- ・「歯の健康展」を開催し、小・中学生が作成したむし歯予防ポスターの展示、無料歯科健診・相談、フッ素塗布やブラッシング指導、口腔内カメラ撮影、むし歯予防啓発パネルシアターや紙芝居、バルーンアートのプレゼントを実施。

行政

■地域保健課

○街角歯科健診

- ・「食祭」と同日に開催し、地域住民に歯科健診及びフッ素塗布、唾液潜血反応検査を実施。

○ブラッシング指導

- ・公私立幼稚園・保育所において、歯科衛生士がパネルシアターで歯の大切さを伝え、ブラッシング指導を実施。

○歯周病予防教室

- ・40～64歳を対象に歯周病予防についての健康教育を実施。

■保健給食管理課

○歯と口の健康週間に係る表彰式

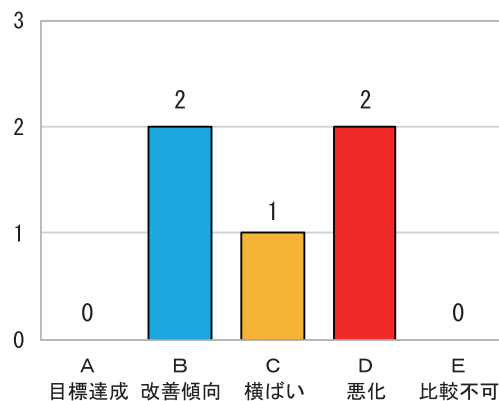
- ・小・中学校における歯の健康教育・保健指導及び口腔衛生の意識向上を図るため、6月4日から10日までの歯と口の健康週間にあたり、「よい歯の児童」「よい歯の学校」及び、口腔衛生啓発のポスター・詩・標語の優秀者を表彰。

③現状と課題

- ・40歳における進行した歯周炎を有する者の割合が増加しています。歯周病と全身疾患の関連について周知し、口腔衛生管理の重要性を啓発していく必要があります。40歳時点での歯周病の発症・進行を防ぐには、40歳になる前の若い世代への啓発が必要です。その世代は、こどもの保護者にあたる世代であるため、こどものむし歯予防と合わせて啓発していく必要があります。

（7）介護予防

5指標のうち、「改善傾向」は2つ、「横ばい」は1つ、「悪化」が2つで、目標を達成している指標はありませんでした。



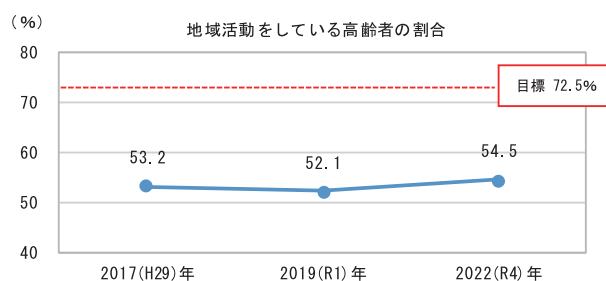
①目標達成状況

指標7-①

地域活動をしている高齢者の割合の増加

横ばい

- ・地域活動をしている高齢者の割合は、横ばいとなっています。



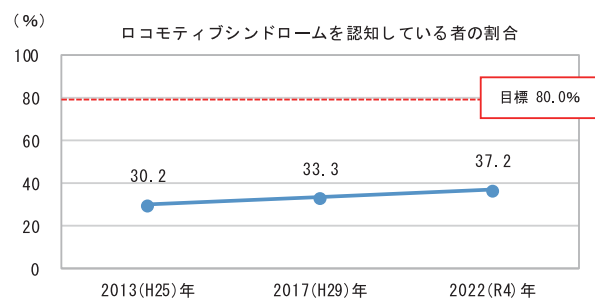
※目標は中間評価時の目標の値です。
出典：和歌山市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

指標7-②

ロコモティブシンドロームを認知している者の割合の増加

改善傾向

- ・ロコモティブシンドローム（運動器症候群）を認知している者の割合は、目標は達成していませんが、増加しています。



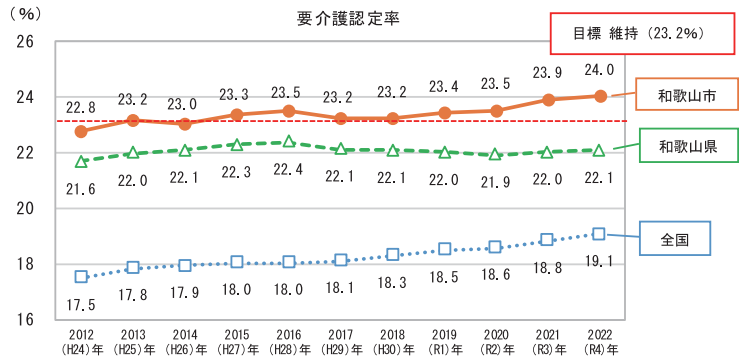
出典：市政世論調査

指標7-③

要介護認定率の増加の抑制

悪化

- ・要介護（要支援も含む）認定率は、増加しており、全国及び県と比較して高い状況となっています。



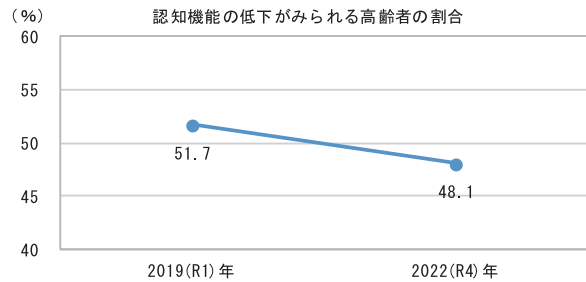
※目標は中間評価時の目標の値です。
出典：介護保険事業状況報告（各年度9月末現在）

指標7-④

認知機能の低下がみられる高齢者の割合の増加の抑制

改善傾向

- ・認知機能の低下がみられる高齢者の割合は、減少しています。



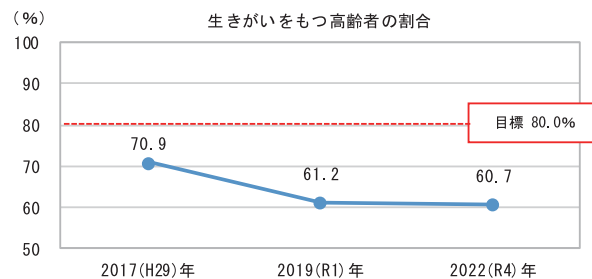
※目標は中間評価時の目標の内容（値）です。
出典：和歌山市介護予防・日常生活圏域二ーズ調査

指標7-⑤

生きがいをもつ高齢者の割合の増加

悪化

- ・生きがいをもつ高齢者の割合は、減少しています。



出典：和歌山市介護予防・日常生活圏域二ーズ調査

②これまでの主な取組

関係機関・団体

■各種団体

- ・認知症になっても住み慣れた地域で安心して生活できるよう、認知症の人や家族の人が安らげる場、認知症に関する相談ができる場、地域の誰もが気軽に集い交流できる場として「認知症カフェ」を開催。

行政

■地域包括支援課

○わかやまシニアエクササイズ

- ・介護予防活動に取り組むサポーターを養成する講座を開催するなど、住民主体のグループ活動を支援。

○WAKAYAMA つれもて健康体操

- ・リハビリ専門職を派遣し、健康講座、体操指導、体力測定などを行い、継続した自主活動（体操）の支援を実施。

○認知症サポーター*養成事業

- ・認知症の正しい理解を深め、認知症の方や家族を暖かく見守る応援者「認知症サポーター」の増員。

○つれもてサポート事業

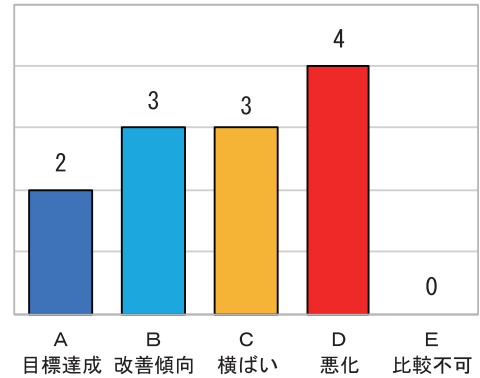
- ・介護施設でボランティア活動をした場合にポイントを付与し、貯まったポイントの数に応じて換金を実施。

③現状と課題

- ・要介護認定率は、全国及び県と比較して高くなっています。また、本市は男女ともに70歳から74歳までの人口が多いことから、介護予防の取組の強化が重要です。
- ・生きがいをもつ高齢者の割合が減少しています。社会参加や他者との交流に加え、趣味や余暇、家庭生活の充実などさまざまな場面に喜び・楽しみを見出す暮らし方が、社会的役割や居場所があるといった生きがい感に関連していることから、人と人とのつながりが育つまちづくりを推進していく必要があります。

(8) 健康管理と重症化予防

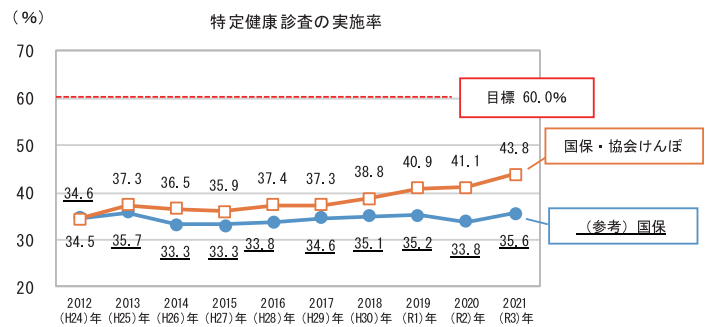
12指標のうち、「目標達成」は2つ、「改善傾向」は3つ、「横ばい」は3つ、「悪化」は4つでした。



①目標達成状況

指標8-①	特定健康診査の実施率の向上	改善傾向
-------	---------------	------

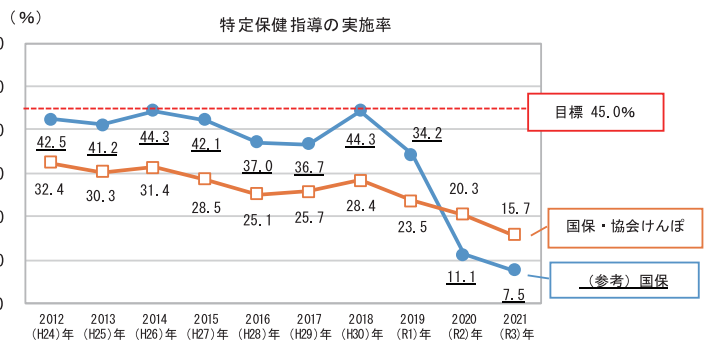
- ・国保・協会けんぽを合わせた特定健康診査の実施率は、目標は達成していませんが、増加しています。



出典：特定健康診査（和歌山市民健康保険・全国健康保険協会和歌山支部）

指標8-②	特定保健指導の実施率の向上	悪化
-------	---------------	----

- ・国保・協会けんぽを合わせた特定保健指導の実施率は、減少しています。
- ・2020(令和2)年以降は、新型コロナウイルス感染症のため、指導方法の変更等を行ったことで低下しています。



※目標は中間評価時の目標の値です。

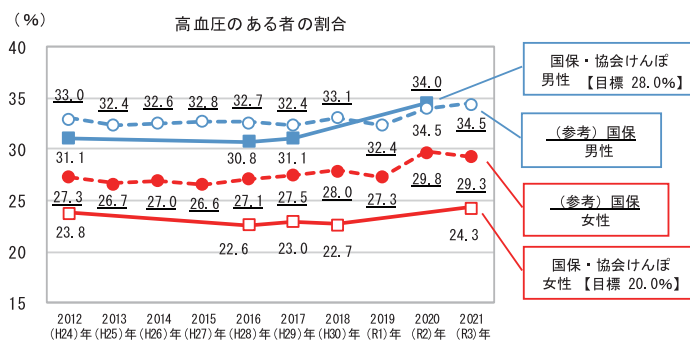
出典：特定健康診査（和歌山市民健康保険・全国健康保険協会和歌山支部）

指標8-③

高血圧のある者の割合の減少

悪化

・国保・協会けんぽを合わせた高血圧のある者（収縮期血圧 140mmHg 以上もしくは拡張期血圧 90mmHg 以上）の者の割合について、男性は増加していますが、女性は横ばいとなっています。



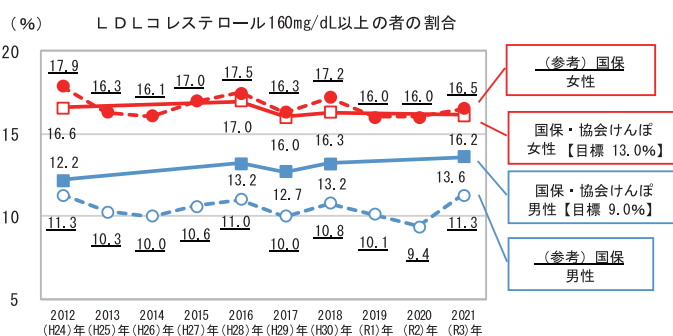
出典：特定健康診査（和歌山市国民健康保険・全国健康保険協会和歌山支部）

指標8-④

脂質異常症の者の割合の減少

悪化

・国保・協会けんぽを合わせた脂質異常症（LDLコレステロール 160mg/dL 以上）の者の割合について、男性は増加していますが、女性は横ばいとなっています。



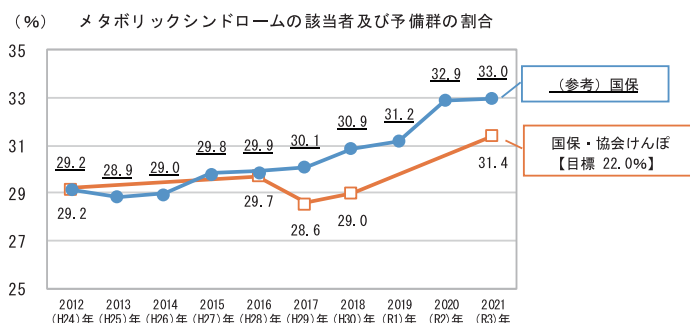
出典：特定健康診査（和歌山市国民健康保険・全国健康保険協会和歌山支部）

指標8-⑤

メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の割合の減少

悪化

・国保・協会けんぽを合わせたメタボリックシンドロームの該当者及び予備群の割合は、増加しています。



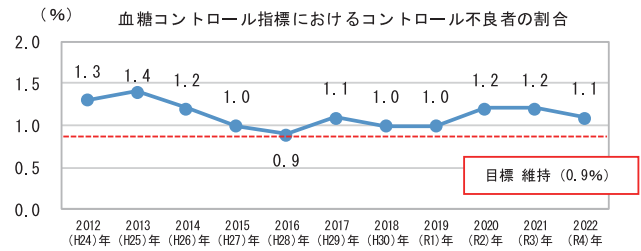
出典：特定健康診査（和歌山市国民健康保険・全国健康保険協会和歌山支部）

指標8-⑥

血糖コントロール指標におけるコントロール不良者の割合の減少

改善傾向

- ・血糖コントロール指標におけるコントロール不良者(HbA1cがJDS値8.0%(NGSP値8.4%)以上の者)の割合は、減少しています。



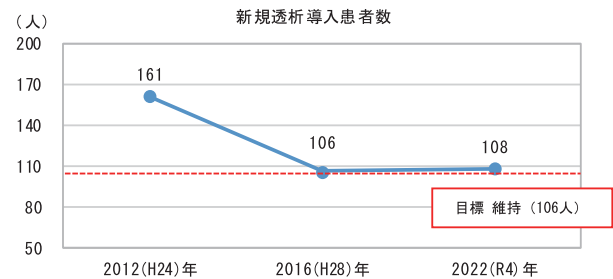
※目標は中間評価時の目標の内容(値)です。
出典：特定健康診査（和歌山市国民健康保険）

指標8-⑦

新規透析導入患者数の減少

目標達成

- ・新規透析導入患者数は、目標を達成しています。



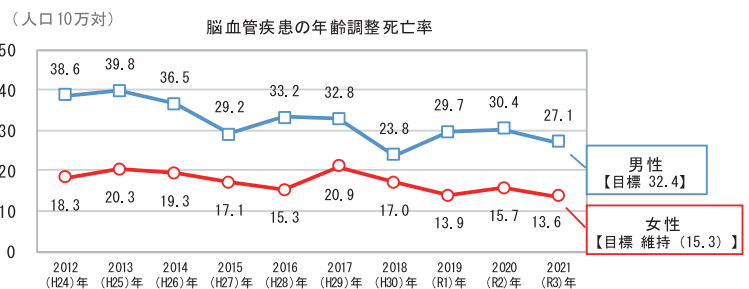
※目標は中間評価時の目標の内容(値)です。
出典：和歌山市透析療法受療者調査

指標8-⑧

脳血管疾患の年齢調整死亡率の減少

目標達成

- ・脳血管疾患の年齢調整死亡率（人口10万人当たり）は、男女ともに目標を達成しています。



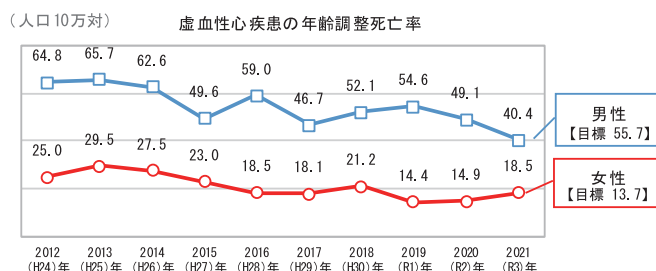
出典：人口動態統計 基準人口：昭和60年モデル人口

指標8-⑨

虚血性心疾患の年齢調整死亡率の減少

改善傾向

・虚血性心疾患の年齢調整死亡率（人口10万人当たり）は、男性は目標達成しており、女性は減少しています。



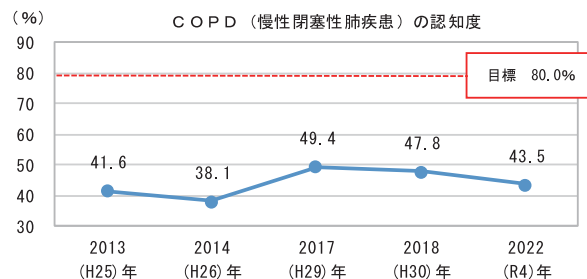
出典：人口動態統計 基準人口：昭和60年モデル人口

指標8-⑩

COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度の向上

横ばい

・COPDの認知度は、横ばいとなっています。



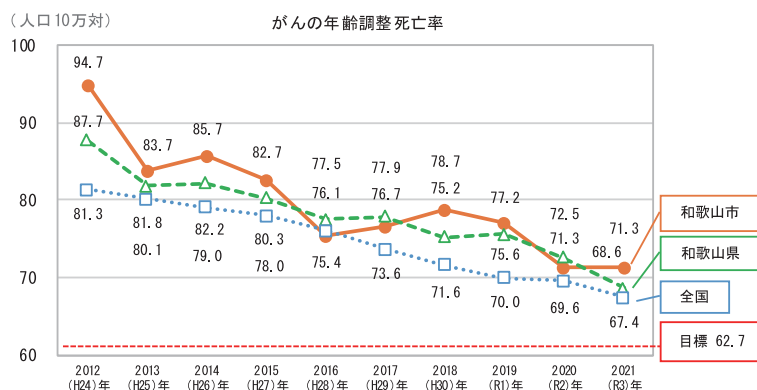
出典：市政世論調査

指標8-⑪

がんの年齢調整死亡率の減少

横ばい

・75歳未満におけるがんの年齢調整死亡率（人口10万人当たり）は、横ばいとなっています。



※中間評価後の指標は「がんの年齢調整死亡率の減少」を追加し、中間評価時 75.4%を基準とし、「和歌山市地域保健医療計画」の目標値に合わせ、目標を62.7(人口10万人当たり)としました。

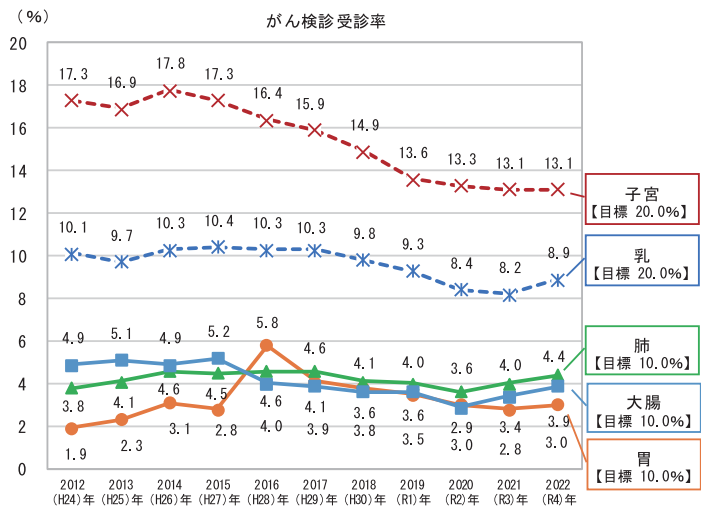
出典：人口動態統計 基準人口：昭和60年モデル人口

指標8-⑫

がん検診受診率の向上

横ばい

- ・がん検診受診率は、肺がん、胃がんは増加していますが、子宮がん、乳がん、大腸がんは減少しています。



※目標は中間評価時の目標の値です。

出典：和歌山市がん検診

②これまでの主な取組

関係機関・団体

■和歌山市薬剤師会

- ・生活習慣病（NCDs）予防を目的に、健康に関する講演、自分の健康チェックのための相談・測定・体験コーナーなどを設けたイベント「健康サポートイベント」を開催。

■和歌山慢性腎臓病対策協議会（W-CCKDI）

- ・和歌山市の慢性腎臓病（CKD）医療連携を目指して設立された。和歌山市腎臓内科・透析専門医、和歌山市医師会、和歌山市薬剤師会、和歌山市保健所、糖尿病性腎症*重症化予防対策推進検討会により構成され、医療従事者を対象に定期的に研修会を開催。

行政

■国保年金課

○特定保健指導

- ・特定健康診査の結果、健康の保持に努める必要がある人に対して、生活習慣の改善を目的として、継続的な保健指導を実施。

○糖尿病重症化予防教室

- ・特定健康診査の結果、糖尿病の重症化のリスクの高い人に対して、糖尿病の病態や医療の必要性、運動や食事等の重症化予防を図る教室を開催。

○糖尿病性腎症重症化予防事業

- ・糖尿病性腎症重症化予防プログラムに基づき、糖尿病が重症化するリスクの高い人うち、医療機関の未受診者・治療中断者を医療に結びつけるとともに、糖尿病性腎症で通院する患者のうち重症化リスクの高い人に対して、人工透析*等への移行を防止することを目的に主治医と連携のもと保健指導を実施。

■地域保健課

○健康教育・健康相談

- ・各保健センターにおいて、生活習慣病（NCDs）予防や健康増進に関する健康教育・健康相談を実施。

○栄養教室

- ・各保健センターにおいて、野菜、減塩など生活習慣病（NCDs）予防を中心に、テーマ毎に講話と調理実習を実施。

■協会けんぽ、国保年金課、地域保健課

○特定健康診査と同時にがん検診を実施

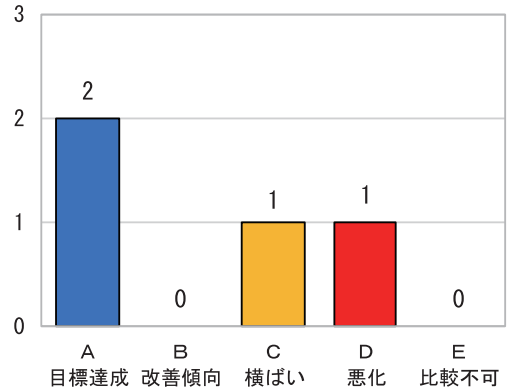
- ・「国民健康保険の特定健康診査受診券」に「和歌山市のがん検診の案内」を同封し、特定健康診査とがん検診の同時実施を啓発。
- ・国民健康保険の集団特定健康診査と同時に市のがん検診を実施。
- ・全国健康保険協会（協会けんぽ）主催の被扶養者の集団特定健康診査と同時に市のがん検診を実施。

③現状と課題

- ・特定健康診査の実施率は増加していますが、特定保健指導の実施率は減少しています。生活習慣を見直すための保健指導の強化が必要です。
- ・メタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合は増加しています。将来的に心疾患や脳血管疾患などの重大な疾患につながるリスクが高いことから、今後さらに取組を強化していく必要があります。
- ・がん検診受診率は、肺がん、胃がんは増加していますが、子宮がん、乳がん、大腸がんは減少しています。がん検診受診率向上に向けた啓発に加え、市民が様々な制度を利用してがん検診が受けられるよう、関係機関が連携した総合的な取組が必要です。

(9) 地域の絆

4指標のうち、「目標達成」は2つ、「横ばい」は1つ、「悪化」は1つでした。

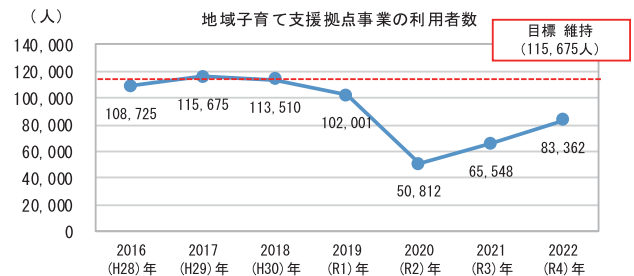


① 目標達成状況

指標9-① 地域子育て支援拠点事業の利用者数の増加

悪化

- ・地域子育て支援拠点事業の利用者数は、減少しています。

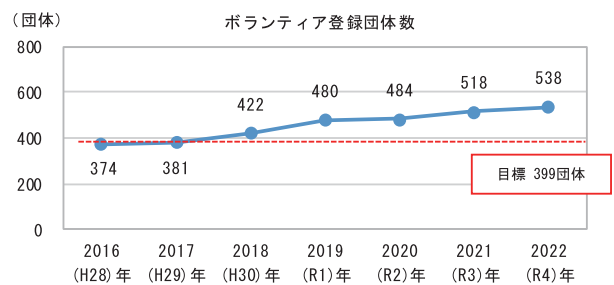


※目標は指標変更後の値です。
出典：和歌山市子育て支援課調査

指標9-② ボランティア登録団体数の増加

目標達成

- ・ボランティア登録団体数は、目標を達成しています。



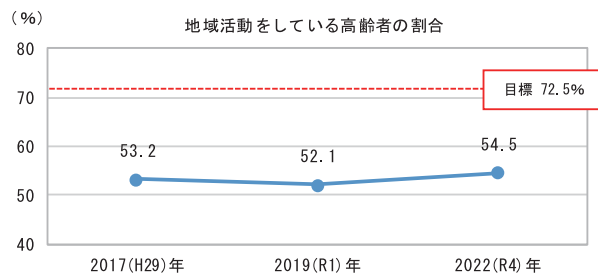
※目標は指標変更後の値です。
出典：和歌山市自治振興課調査

指標9-③

地域活動をしている高齢者の割合の増加

横ばい

- ・地域活動をしている高齢者の割合は、横ばいとなっています。



※目標は中間評価時の目標の値です。

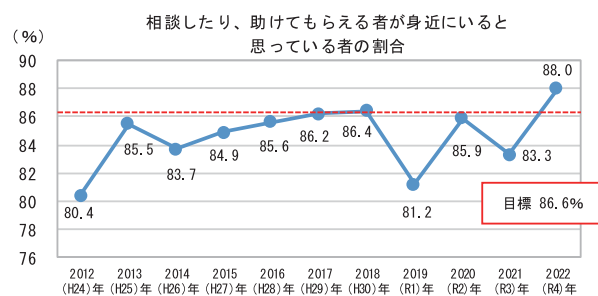
出典：和歌山市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

指標9-④

相談したり、助けてもらえる者が身近にいると思っている者の割合の増加

目標達成

- ・相談したり、助けてもらえる者が身近にいると思っている者の割合は、目標を達成しています。



※目標は中間評価時の目標の値です。

出典：市政世論調査

②これまでの主な取組

関係機関・団体

■和歌山市老人クラブ連合会

- ・各種スポーツ大会の開催、サークル活動、ボランティア活動、友愛活動を通して、生きがいと健康づくりに取り組むとともに、地域を豊かにする老人クラブ活動を実施。

■各種団体

- ・和歌山市婦人団体連絡協議会所属の18団体では、生活上の課題について学習する場として「女性学級」を開設し、各団体が年4～5回開催。2017(平成29)年度の開催テーマの例としては、「楽しみ学び、延ばそう健康寿命」「会員の親睦と地域の絆を深める！」「人と人との絆を深め、若者も高齢者と共に活力ある地域に」など。

■和歌山市民生委員・児童委員協議会

- ・民生委員・児童委員*、主任児童委員が、市内11か所で親子が楽しめる体操、手遊び、紙芝居などを実施し、親子が集まれる場を提供。

行政

■地域包括支援課

○WAKAYAMA つれもて健康体操

- ・リハビリ専門職を約1か月間に4回自主グループに派遣し、参加者に健康講座、体操指導、体力測定などを行い、派遣終了後も継続した自主活動（体操）ができるための支援を実施。

■子育て支援課

○ファミリー・サポートセンター事業

- ・地域においてこどもの預かりの援助を行いたい者（提供会員）と援助を受けたい者（依頼会員）からなる会員組織（ファミリー・サポートセンター）を運営。

③現状と課題

- 地域子育て支援拠点事業の利用者数は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2020(令和2)年に急減しましたが、それ以降は増加傾向となっています。子育て世代の交流や相談の場として活用されています。